

---

# 魔法先生ネギま！ 例のやつがやってきた？

ハテナーナ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法先生ネギま！ 例のやつがやってきた？

### 【Nコード】

N8312X

### 【作者名】

ハテナーナ

### 【あらすじ】

麻帆良学園にとある人物がやってきた

そいつは裏では有名な最強防御魔術師

とりあえずキャラ設定その1(前書き)

映画化記念(一ヶ月以上経過しているが)なので投稿

## とりあえずキャラ設定その1

八樹<sup>はちじゅ</sup> 26歳 誕生日 11月3日

本編の主人公 無詠唱で魔法を使えるが本職はあくまで剣士

近衛木乃香と桜咲刹那とは知り合い関係 何故そうなったかは後々

魔法学校に通っていたが五ヶ月で中退

その後独学で魔法を覚える

だが中学生になってから6年近く魔法を封印したためかなり弱くな  
った

出身は岡山県 瀬流彦先生とは結構仲がいい

ちなみに魔法は777個覚えているが600個はまったく役に立た  
ない魔法である (たとえば白紙を一瞬で黒くする魔法とか)

ハテル・テル 誕生日 10月29日

こんな名前だがこれでも日本人そして八樹の幼馴染

独学で魔法を覚えたある意味すごいやつ

かなり強力な炎魔術師でエヴァンジェリンに匹敵する強さを持つ

魔法使い連合会議？ (前書き)

PC不調のため短め

## 魔法使い連合会議？

世界樹前 六時ごろ

瀬流彦 SIDE

え〜と今日から配属される魔法使いが一人きたみたいだから

だけどころな時期に珍しいね もうすぐ期末テストが始まるのに

まあ僕はたいした魔法はつかえないけど 配属される人はかなりすごい魔法使いらしい

ちなみにここには今は人払いの札を貼っているから魔法関係者以外はだれもいない

「え〜 さてこの学園にやってきた魔法使いを紹介するかの」

学園長先生がやってきた つれてこられた人は僕の知り合いのようだね

「では自己紹介を」

「あ〜 あ〜 俺の名は八樹だ とりあえず宜しくお願いします」

彼の名前を聞いてみんなが騒ぎ出す そりゃあ彼は有名人だからね

特に桜咲さんが驚いていた まあ彼女は八樹とは知り合いだったらしいからね

「では今日はこれにて解散じゃ」

学園長の言葉によつて解散 人払いの札もなくなったよつで生徒たち  
ちが

わらわらと集まってきた

## 学園長室

### 八樹SIDE

ここは学園長室 何故呼ばれたかつて？ バイト生活とか色々楽しんでいるときに突然

「この学園で教師をやってくれんかの？」って携帯に電話がかかってくるんだぜ？



おまえはどこで俺の携帯の番号を知ったんだよ

ちなみに学園長室には俺と学園長そして高畑先生の三人がいる

高畑先生は魔法界ではかなりなやつだったらしい

「して八樹君には2・Aの副担任をやってもらうとする」

「まあかまいませんよ」

「あと何か得意科目とかはあるかの？」

「国語以外なら基本得意ですが 教えるとなると数学以外は無理です  
すね」

国語以外は毎回満点なんだよな 国語は半分くらいだが

「なら数学の教師になってもらうかの」

「了解」

こうして俺は数学担当の2・A副担任となった 高畑先生は空気だったけど

## 初授業？

八樹SIDE

ときはとんで授業当日

「いよいよですね」

「まあそうですね 変わったクラスだと瀬流彦先生から聞きましたし」

ちなみに中等部女子2-Aのやつらに知り合いは少しいるんだよな

ちなみに一緒にきてくれたのは高畑先生 Thank you だな

9

いよいよ教室 ドアには黒板消しが

「ハハハこんな古典的な罫があるとはな……………」

隙間から覗いてみると明らかに黒板消しが頭に落ちてそれで動転してロープでこけさせてバケツに頭が入って教卓までくるくるなつてぶつかり生徒に笑われるか…………

ひどいクラスだなおい！

「まあ こういうクラスだからねウチは」

とりあえず黒板消しは取っておいて

ガラガラガラー

龍宮真名SIDE

噂の魔法使いの教師が来たか……………

黒板消しの罫を回避しロープをジャンプでかわしそのまま教壇につくとは

なかなかやるようだな

「あゝ この件については置いて自己紹介をしておこう  
名は八樹 一応数学教師となった このクラスの副担任であって教  
師免許はない 以上」

そんなことを言っているのか……？

「質問はSHR内までなら聞いてやる 今のうちに聞いておくこと  
だな」

そういつた瞬間クラスは騒がしくなった

先生はどこからやってきたかとか

彼女はいるのかとか

好きな食べ物とか嫌いな食べ物とかなどなど

ま、私は興味はないがな

八樹SIDE

チャイムが鳴り とりあえず俺は教室を出る 一時間目は高畑先生

が授業だからな

俺は2 - Fだけど 2 - Aは五時間目だな 授業はこの二回だけ  
楽だな

明日は全時間だけだな

ま、がんばるか

一学期期末テスト（前書き）

次回くらいにネギ登場予定

そして次回くらいから真面目に書こう

## 二期期末テスト

八樹SIDE

時は飛んで 期末テスト一週間前

予想通りだがみんなやる気なし

ついさつき小テストを行い採点が終わった

結果は一位は超鈴音の100点

二位は葉加瀬聡美の99点

三位は雪広あやかの98点

四位は宮崎のどかの96点

五位は朝倉和美の95点

六位に近衛木乃香の92点

ここまでが九十点台

ちなみにワースト6は

桜咲刹那とZazie Rainydayの42点

ギリギリ欠点じゃないレベルだな

のこりはバカレンジャーと呼ばれている5人衆

一番悪いのは神楽坂明日菜だが

まあこいつは高畑先生の補習目的でわざと悪い点数を取っているとか……

それはいいとしてこのままだと最下位確実

ま、最下位でも怒られたりはしないと思うし気楽にやろう

「今更だが　せめて最下位脱出のため今からやる小テストで60点以下のやつは放課後鬼の補習を行う  
文句は聞かんぞ！」

ええ〜！？と上がる声　そう言うやつにかぎって勉強ができないのが普通だが

成績優秀の朝倉とか一応合格レベルの鳴滝姉妹もええ〜！？といていた

お前らレベルなら合格できると思うから大丈夫だ



「なら配るぞ 結果は高畑先生配ってくれる」

そうして配る

ちなみにみんなのテスト中に俺は何故か社会のテストを作成

担当の先生が俺と入れ替わりで辞めやがったから変わりに俺が作ら  
されるハメに

そして放課後

意外と合格したようで残りはバカレンジャーの5人衆だけだった

「えっと これより補習を行う 二十点満点のテストで八割以上の点数で合格だ できるまで付き合っからな」

「え〜つと先生！」

「なんだ？ 佐々木よ？」

「八割って何点以上のことですか？」

割合くらいわかれよ 小学生レベルだぞ！？

とりあえず言えることは こいつらを底上げするのは大変だということだ

その後期末テストが行われてからうじてワースト3位に滑り込んだ

一学期期末テスト (後書き)

次回からは真面目に……かけると思う

## ネギ登場

八樹SIDE

2 - A天井裏

三学期開始早々天井裏にいる2 - Aの副担任

何で天井裏にいるかって？

どうせ2 - Aでは罨が張られるんだし

新米教師にかかってもらおうという考えだ

たしかサウザンドマスターの息子だったはず

ちなみに冬休みの間は生徒と仲良くなる努力をした

一部以外は仲良く話せるレベルに

あとは遠当での練習だな がんばって俺の知り合いレベルまで練習した

覗くために天井に穴を空けた 後で直すけど

「失礼しま……」

来たようだ しづな先生の同伴で

そして黒板消しの罨がやってくる

ポフツ 一瞬止めて結局かぶってしまったようだ

「あらあら」

「ゲホゲホ いやーあはは なるほどゲホ ひっかかっちゃったなあコホ」

そして第二の罨 「へぶっ!？」 ロープでこけて「あぼ！」 水入りバケツが落ちて「うわあああああ」 矢が飛んできて

「ギャフン」 教卓に激突と

『『『アハハハ!!!』』』

クラスの大半分が笑っていた

「えっ?」

「あれ?」

ちなみに新任教師は数えで10歳だったはず

「えーっ! 子供!?!」

「君、大丈夫!？」

「ゴメン! てっきり新任教師だと思って!」

こいつが新任教師なんだけどな

「いいえ その子があなたたちの新しい担任よ 八樹先生は副担任  
のままだけど

とりあえず自己紹介をしてね ネギ君」

「ハ、ハイ」

たしかこいつはネギ・スプリングフィールドで得意魔法は風だった  
はずだ

「え、えと あの……ボク……ボク……」

今日からこの学校でまほ……英語を教えることになりました  
ネギ・スプリングフィールドです

3学期の間だけですけどよろしくお願いします」

魔法と言いかけたことに関してはスルーする

「キヤアアアア!」

「かわいい!」

一応歓迎されてるようだ



## ネギ歓迎会（前書き）

そろそろ魔法を出さないとな



## ネギ歓迎会

八樹SIDE

とりあえずネギ先生の授業はg d g dになった

そしてネギ先生の歓迎会用のクラッカーを買いに行かされた

生徒にパシリされる教師とか聞いたことないぞ

一応買ったからいいけどさ

「ほらよ 買ってきたぞ」

「サンキュー」

そして一部の生徒にタメ口で話されるようになった

ちなみに今のは明石裕奈だけど

ちなみにネギ先生はさっき見たし もう来るだろう

「あとちょっとで来ると思うから準備しとけよ！」

『『『おおー！！！』』』

数分後

「早速実行よ 荷物とつてくるからちよつとそこで……」  
何を実行するんだよ？

『よつこそ！』

『ネギ先生！』

ようやく主人公であるネギ先生登場

「あ……そーだ 今日あなたの歓迎会するんだっけ…… 忘れてた  
！」

「えー！！！」

えー！！！はこつちだよ 忘れんなよ大事なことなのにさ

歓迎会は順調に進んだ

肝心のネギ先生は高畑先生に読心術を使ってたようだが  
あの先生に読心術はきかないと思う

次の日の夜

t r r r r r r r r r

「はい こちらは八樹」

『八樹が、ようやく倒したぞ お前の家の近くにいたドラゴン』

「おお やつとか サンキュー ハテル」

ハテルと俺のもう一人の幼馴染のJ・Mジェンソン・マルケスに上級種の龍を倒してもらった

最近俺の家（当然魔法世界の）に龍が大量にやってくるんだよね

というわけでこの二人を魔法世界に送り込んだ

冬休みに龍宮や刹那を連れて行ったんだけどまだいるようだな

ちなみにJ・Mは最上級の回復魔法を覚えているからあっちの世界では最強の治療師と呼ばれている

強さAのネギ先生レベルだけどね あいつ攻撃技ほとんどないし

ちなみに俺はSBでハテルはSC

『とりあえず しばらくしたら旧世界に戻るぞ』

「おお いつぐらに帰れるか？」

『お前らの学校で修学旅行が始まるくらいの時間かな？』

「遅いな！？ おい！」

## 惚れ薬編？

放課後

八樹SIDE

そこらへんを歩いていたらネギ先生発見

声をかけようと思ったたら図書館探検部の三人が先に声をかけた

ちなみに宮崎のどかはたしか恥ずかしがりやだったが木乃香嬢によつて俺は話せるようになった

ちなみにかなり離れているから会話は聞こえないので近づく

「ふう どーしょ ん？」

何かが出てきたようだ あれはたしか魔法の素丸薬七色セット大人用

「これさえあればホレ薬みたいなのが作れるかも！」

惚れ薬は犯罪なんだけどな どうでもいいしほっておこう

数分後 学園の警備をすることに

そして2 - Aの教室を覗くと神楽坂によってネギ先生がホレ薬を飲  
んじやった

「ネギ君ってよく見るとなんかスゴクかわえーなー」

どうやら木乃香嬢が一番の被害者となった

「ちよちよつと何をやってるんですかこのかさん!？」

いいんちようが第二被害者になりそうだ まあこいつはもともと愛  
してるそうだからいいけど

「先生どうぞコレを……」

どこからか花束を出した

ちなみに何故か神楽坂には効かない

こいつアレがあるのか？

「はいぬぎぬぎしましょうね」

「ああ やめっ やめてくださいーっ!」

これがいわゆる自業自得というやつだな

そしてカオスになってきそうだから退却 とりあえず図書館あたりに

図書館前の扉

鍵がかかっているね

そしてネギ先生に先を越されてしまった

「きゃあっ」

転落？

「いてて だ……大丈夫？宮崎さん」

「「あ……」」

「よお 神楽坂よ 中が大変なことになってるよ」

「ええ！？ どんなことに!?!」



「もうちょっとでキスするだろうな 惚れ薬の効果が切れるまで  
ま、あの量ならあと少しでできれると思っよ」

「へえ 結構詳しいのね」

「そりゃあ 魔法使いだからさ」

「ええええ!？」

「いや驚くことじゃないだろ? ネギ先生だって魔法使いだし そ  
れよりはやく助けてやれ」

遠当て練習（前書き）

オリジナル物語　そしてオリジナル技を使用

## 遠当て練習

冬休み中

八樹SIDE

俺はとあるやつらに言わなければいけないことがある

「ゴハア!？」

開始早々殴られた 遠当てで

こんなことできるのは俺の知ってるやつだと

豪徳寺か中村のどっちかだ

「おい！ だれだ今のは！ 豪徳寺か中村だって事はもうわかってるぞ」

必殺 影移動

「ほい 到着」

「おおい！？ どこから来たんだよ！？」

「というわけで どっちがやった？」

「豪徳寺だったはずだが」

「ほうほうそうかそうか なら覚悟しときな 烈空弾！」

俺の作った遠当てその4 命中率が高めだが大して強くない ちな  
みに8つ作った

「ぐほぁ！？」

どうでもいいが何故こいつらとつるんでいるかと言いつと

遠当てその8を製作中に中村の遠当てを食らってしまい2秒意識が  
飛んだ

そして遠当て仲間ということ仲良くなった

「っ！ 痛えな 漢魂！」

「負けるかよ！ 砲劉覇！」

遠当てその1 威力重視のため 意外とあたらないが今回は当たった

「へえ やるねえ 昨日は命中率が格段に低かったのにな」

「修行してるんだよ ちゃんと」

こっこの一時間が向こうで一日になる別荘で

「とていうか明日ちょっと旅立つからそれを伝えたいだけだ よって  
しばらくは練習に参加しない」

「おい マジかよー！」

遠当て練習（後書き）

八樹「第一回オリジナル技解説を始めるぞ！」

豪徳寺「おおー！！！」

山下「おー」

八樹「ちなみにメンバーは俺プラスこの二人とゲスト一人だが今回は第一回だしまだあの女子たちとほとんど接触してないからゲストはなしだ」

山下「とりあえず遠当てはスルーして影移動の解説をしよう」

八樹「これはまあ 瞬動の下位技だな」

豪徳寺「影のないところからあるところにししか移動できないしオマケに夜はほとんどつかえないからな」

八樹「とりあえず今回は解説終了 中村や大豪院は後々に出ると思うよ」

## 八樹の魔法、武術設定

八樹「第二回オリジナル技解説を始めるぞ！」

豪徳寺「しかも拡張版だってよ！」

山下「早くない!？」

八樹「だってまだ魔法でてないんだぜ？」

山下「たしかにそうだけど……」

豪徳寺「じゃあ まずは魔法の紹介だ」

魔力 大体木乃香より少し少ないくらい

主に使う魔法は防御系

そして呪文詠唱時によく噛んでしまうので無詠唱主義

始動キーは リモート・フォート・ローレック

適当に作ったので忘れかけている

攻撃魔法はほとんど使えない 魔法の射手も15本が限界

本人曰く弱点は雷系魔法

得意魔法は炎

銃も龍宮真名ほどじゃないがかなりの腕前

防御系魔法

真空壁

炎系魔法しか防げないどうでもいい魔法

亜空の筒

相手の攻撃をそのまま返す強い技だが何故か氷系魔法には使えない  
あと魔法にしか使えない

絶対防御

ほとんどの攻撃を防げる最強？な技　しかしこの技を展開中はほか  
の魔法を使えず  
自分も動けない

などなど

豪徳寺「魔法の紹介少ないな！」



八樹「こんくらいしか思いつかなかったんだ」

山下「じゃあ次は武術系だな」

遠当て全8種類

説明省略

爆砕砲

右手に気を溜めて一気に放つ技  
運がよければ学校ひとつくらいは焼け野原にできる

真硫連撃

爆砕砲の左手バージョン  
こっちのほうは若干強い

スロー速拳

別名 遅痛拳

とてつもない速さで相手を殴る  
この技によるダメージは2秒後に発生する

これは居合い拳を参考にして作った

などなど

豪徳寺「また短っ！」

八樹「これくらいしか思いつかないんだっさ」

山下「ひどい作者だな　というかゲストはどうしたんだ？」

八樹「まだほとんどのやつと接触してないからまだなしだ」

豪徳寺「期末テストでかなり空いてしまったからな　ちなみに昨日終わったそうだ」

八樹「凡ミスばかりしたって嘆いたけどね　まあおまけとしてハテルのキャラ設定とJ・Mの紹介でもしよう　まずはハテルのほうだ」

## 魔法系

炎系まほうしか使えない

魔法の射手は50本を無詠唱でいける（当然炎限定）

始動キーは　ファイヤー・ロック・ホート・マステギー

八樹と仮契約をしている

称号は無限の炎の戦士

技

ヘルファイヤー  
地獄火

一応本人の中で最強技

紫色の炎を手に出して投げつける 最大は直径100mだが普通は  
そんなに大きくない

炎の壁

風系魔法を使われると一瞬で消えてしまいがそれ以外は基本防げる

J・M

これでも魔法世界では超有名な治療師

基本どんな怪我でも治せるが打撲だけは直せない

あと当然ながら死人を蘇生するなんてできるわけないよ

雷の下位魔法も使えるがあまり強くない

八樹と仮契約をしている

称号は回復のスーパースター

始動キー ヒール・ヒーラック・ホーリック

技は省略

八樹「以上 紹介終了！ 次は多分吸血鬼編だな」

山下「ずいぶんと飛ぶんだね」

八樹「どうせ学年末編はネギのやつが勝手に解決させちゃうんだし  
木乃香編は後に番外編としてやることにしたし」

豪徳寺「んじゃな」



桜通りの吸血鬼（前書き）

八樹「うわ やっべ！」

豪徳寺「どうしたんだ？」

八樹「魔法より剣術の方が得意なのに紹介し忘れたという」

山下「じゃあ紹介しないと」

主に使用する武器

柳葉刀 クレイモア 長柄刀 メールブレイカー フランベルジェ

一週間だけ神鳴流に入っていた

斬空閃

空間を切る危険すぎる技

真空刃

適当に作ったかまいたちを相手に投げつける

## トルネードソード

両手に剣を持って回転し、竜巻を起す  
若干風の魔法を使用

などなど

## 桜通りの吸血鬼

八樹SIDE

新学期の夜

いよいよ3年　ネギの野郎が正式な担任となり俺は副担任から降ろされた

まあ数学は教えるけどね

それはどうでもいいけど問題は吸血鬼の事件なんだよな

記念すべき最初の犠牲者はまき絵か

犯人は間違いなく真租のエヴァンジェリン・A・K・マグダウエルだろっ

俺はあえて微妙なアタナシアと呼んでいるが　とある訳があったね

そして桜通りに来ると結構力オスなことになっていた

「何があったんだよ？」

ほぼ裸ののどかと木乃香嬢と明日菜（名字言いきくいから名前で呼ぶことにした）

おそらく武装解除されたな　ネギのやつはレジストはしたようだが



「ええつとそれが……」

とりあえずのどかを明日菜、木乃香嬢が部屋に運んでくれた

俺は一応ネギの野郎の救出へ行くことにする

とある建物の上

「おまえの親父……すなわち……『サウザンド・マスタ  
ー』のことか ふう……」

ああ、ナギさんのことか さりげなく俺の先祖の七樹が紅き翼の一

員だったりする

もう死んだけど 紹介はのちのちにする

「あと 八樹！ 隠れてないで出て来い！」

おおっと 俺の存在はばれてるようだった

「へいへい でりゃあいいでしょ」

「ええ！？ 八樹先生って「魔法使いだから安心しろ サウザンドマスターの息子のネギ・スプリングフィールド あと先生はつけずに気軽に八樹とでも呼んでくれ」どうして父さんのことを！？」

「それについては後に話す それよりその吸血鬼をどうにかしないといけないんじゃないか？」

「え……えつと……とにかく！ 魔力もなくマントも触媒もないあなたに勝ち目はないですよ！  
素直に……」

いや、こいつには茶々丸がいたから今のお前には無理だろう

「……これで勝ったつもりなのか？」

上の屋根から茶々丸登場

「さあ お前の得意な呪文を唱えてみるがいい」

魔法使いの弱点 呪文詠唱中に攻撃を食らうと魔法を発動できない

「風の精霊11人縛鎖となりて敵を捕まえる」

「ふ・・・」

茶々丸が動く

「サギ・・・あたっ」

茶々丸によるデコピンで魔法が発動できず

「あたた？ えっあつれ！？ き、君はウチのクラスの・・・」

「紹介しよう 私のパートナー 3-A出席番号10番 魔法使いの従者 絡繰 茶々丸だ」

意外と最近にできたロボットだそうだ その前はチャチャゼロだったが あいつ今は動けないはずだ

「え・・・なっ・・・！？ ええっ！？ 茶々丸さんがあなたのパートナー！？」

「そうだ パートナーのいないお前では私には勝てんぞ」

俺はいるけどね

「な・・・パ、パートナーくらいいなくなつて 風の精霊11人・・・」

ネギが呪文詠唱をした瞬間茶々丸が動く

そして普通に頬つぺたをつねられている

「見事なやられっぷりだなネギよ」

「元々『魔法使いの従者』は戦いのための道具だ

我々魔法使いは呪文詠唱中 完全に無防備となり攻撃を受ければ呪文は完成できない」

「もつとも俺は無詠唱主義だし 従者がいなくても十分やれるからいいけど

本来はそれを盾となり剣となって守護するのが従者の本来の使命だそうだ」

「つまり・・・パートナーのいないお前は我々3人には勝てないということさ」

「おい！勝手に俺を入れなくてくれ あくまで俺はお前の敵だぞ」

「フン 冗談だ」

つつても俺は茶々丸に勝てたことがないので抵抗はできんのだが

「申し訳ありません ネギ先生」

茶々丸がネギの首をつかむ ちなみにアナタシアはナギさんに登校地獄ののろいをかけられて

15年も中学生をやっているそうだ かわいそうに まあ俺もがんばれば解けると思うけど

そうこう言っている内にアナタシアがネギの血を吸い始めた さあ  
てどうする？

「いいのですか？八樹先生？」

「なんだ？茶々丸」

「ネギ先生を助けなくても」

「いや大丈夫だろう ほらな」

そついつて後ろを指差す

「こらー！ この変質者どもー！ ウチの居候に何すんのよー！」

明日菜登場 たしかアナタシアは魔法障壁を常に展開してなかった  
っけ？

やっぱり明日菜はアレをもってるのか？

「か、神楽坂 明日菜！？」

「あっあれー？」

結構驚いてるようだ

「あんた達はウチのクラスの・・・ ちよっ どういうことよー!？」

そりゃあこの二人が犯人だからね

「ま・・・まさかあんた達が今回の事件の犯人なの！？  
しかも二人がかりで子供をイジめるような真似をして・・・

答えによってはタダじゃすまないわよ！」

「ぐっ・・・よくも私の顔を足蹴にしてくれたな神楽坂明日菜・・・  
・・・お 覚えとけよ」

どっかの悪役が言うようなセリフを言ってアナタシアと茶々丸は帰っていった

## 八樹の父の過去（前書き）

またまた少し飛んでエヴァが風邪と花粉症になったところらへんからスタート ミスによって途切れたから 20時より再更新する

## 八樹の父の過去

八樹SIDE

エヴァンジェリン、茶々丸家

なんでこんなところにいるかって？ そりゃあとあるバカが風邪を引いたからだ

ちなみに何故か逮捕したはずのエロガモがやってきてネギのやつも完全復活した

何があつたかは知らんが

「八樹先生その薬をとってください

「おおっと ほらよ」

……カランコロソ

ん？ 誰か来たのか？

「なんか誰か来たし出てくるわ」



「誰かいませんか？」

来訪者はネギのようだ

「よお ちなみにエヴァンジェリンは風邪＋花粉症だからな だろ？ 茶々丸」

「ええ」

「ええ！？ 不老かつ不死の彼女が風邪なんてひくわけが……」

いや、アナタシアは今は普通の10歳と同じだし

「そのとおりだ」

普通に風邪引いてるよな？ ハアハア言ってるし

「よく一人できたな 魔力が十分なくても 貴様ごときひよっこをくびり殺すコトくらいわけはないのだぞ？」

かなり自信はあるようだが魔力も封じられてるし風邪だし無理だと思っ

「エ エヴァンジェリンさん！？」

ネギのやつがアナタシアに何か渡す ん？ 果たし状……？

「なんだそれは？」

アナタシアのやつには分からなかったようだ

「はっ 果たし状ですっ！ 僕ともう一度勝負してください！」

いやいや、はっきり言って今のお前がパートナーなしで勝てる確率は1・3%だぞ

「あ あとちゃんとサボらずに学校に来てください！ このままだと卒業できませんよっ！」

「だから呪いのせいで卒業できないんだよ まあいいここで決着をつけるか？ 私は一向に構わないが？」

「……いいですよ そのかわり僕が勝ったらちゃんと授業に出てく  
ださいね！！」

そういつてすぐにアナタシアは階段から落ちた 無理をするなよ

八樹の父の過去（後書き）

諸事情でここまで

八樹の父の過去はまた今度ということ（前書き）

だれか感想を書いてください　なんか0件が悲しいからください

そしてまた飛んで決戦エヴァンジェリン　三巻も今回で終わり

というか早く修学旅行編に行きたい

どうでもいいけど最近M i n e c r a f tの動画を見てやりたいけど  
カード持ってないから買えないということできない

八樹の父の過去はまた今度ということだ

八樹SIDE

とある橋

夜8時あたりに学園全体は停電となった

アナタシアが動くのは今だろう

学園結界の封印が解ければかなり強くなる

と思う

たしかネギのやつは捕縛結界を仕掛けたようだが 前に俺がこいつらと戦ったときに

同じ作戦を使って結界解除プログラムとか発動されて……………なことになる

「こおる大地!!」

おわつと もうここまで来たのか

とりあえず空中から戦いを見させてもらおう

「あぐっ」

明らかにネギの方が劣勢だ

「ふ・・この橋は学園都市の端だ 私はのろいによって外には出られんピンチになれば学園外へにければいいか」

そついやここは学園都市の端だな

「・・意外にせこい作戦じゃないか え？ 先生？」

こりゃあ 助けたほうがいいかな？

ええつと始動キーは つとやべ忘れた！

「な！？ こ これは・・捕縛結果！？」

そついや捕縛結果仕掛けていたんだな 無駄だけど

「や・・やった つ エへへひっかかりましたねエヴァン ジェリンさん！」

おまえにしては立派な作戦だと思うがこれじゃアナタシアには勝てんぞ

「もう動けませんよエヴァンジェリンさん これで僕の勝ちです さあ おとなしく観念して 悪いことも もうやめてくださいね！」

「…………やるなあぼうや 感心したよ ふ…………アハハハハ」  
アナタシアが笑い出す

「な 何がおかしいんですか ご存知のようにこの結界にハマれば簡単には抜け出せませんよ!」

「そうだな 本来ならばここで私の負けだろう 茶々丸」

「ハイマスター」

おそらく結界解除プログラムを作動するのだろう こりゃあ助けに行かないと

だが始動キーを忘れたし とりあえず体術と気でなんとかするか

「コラ 待ちなさい!!」

どうやらパートナーになったらしい エロガモ(オコジヨ)から聞いた話によるとね

「フン来たか ぼうやのパートナー 神楽坂明日菜」

「カモ!」

「合点 姐さん! オコジヨフラッシュ!!」

とりあえず茶々丸を切り抜ける明日菜

俺はその間に下におりる

「フン たかが人間が私に触れることすらできんぞ」

だがしかし 明日菜の蹴りはヒットした

やっぱりアレを持っているとみて間違いないだろう

とある柱の影

「どうする？ 一応気配を消す魔法を使っているが早くしないと気づかれるぜ？」

とりあえず二人と一匹？を柱の影に連れてきた

「アスナさんごめんなさい僕…… 僕 アスナさんに迷惑かけないようについて一人でがんばったのに………ダメでした」

「まったく 子供なんだしもう少し頼ってもいいと思うのだが 特に俺とかさ お前と同じ魔法先生なんだしさ それに明日菜だって自分からきたんだし 迷惑とは思ってないだろ な？」



一応明日菜に同意を求める

「そうよ 私が来たくて来たんだから迷惑でも何でもないの！  
ホラ 協力するからチャッチャと問題児をどうにかするわよ！」

とりあえず協力してくれるようだ

「で……どうするの？ネギ」

「アスナさん……」

とりあえず仮契約するんだろうし魔方陣でも書いておこうか

たしかこうやってこう書いてこうやって……

「お願いします！ アスナさん 僕 あの人に勝たなきゃ！」

「そーこなくっちゃ！ 兄貴 では姐さん……！」

「一応見ないでおくから勝手にやってくれ」

これで一応契約更新したらしいがこんなに光るんじゃああの二人に  
は気づかれるよ

「むっ……そこか……！」

そして二人は飛んでいた

「どうしたばーや？ お姉ちゃんと八樹が助けに来てくれてホッと

「一息か？」

「いや、俺はどちらかという傍観者だし 最悪の場合は助けるが」  
「いよいよ戦いが始まる」

「契約執行 90秒間 ネギの従者 『神楽坂 明日菜』!!!」

契約執行 ま、普通はそれを使うよな

ネギとアナタシアは普通に魔法合戦だ

そして茶々丸VS明日菜はというと

想像以上に明日菜が強くてほぼ互角の戦いを繰り広げている

「さて おまえはネギとエヴァンジェリンのどっちが勝つと思う  
カモよ？」

「うとう 俺たちはネギの兄貴にかけろぜ そういう八樹の兄貴は  
どっちでい？」

「俺もネギのほうと云いたいが賭けが成立しないからエヴァンジェ  
リンに賭けるわ」

「闇の吹雪！」

「雷の暴風！」

気が付けばお互いの使える最強のが使われていた

俺はアナタシアが勝つと思っていたが なんとわずかの差でネギの方が僅差で勝っていたようで

雷の暴風がもろにヒットする

「やりおつたな 小僧・・・ フフツ 期待通りだよ さすがはやつの息子だ・・・」

アナタシアはまだ戦えるようだ……………が

「おい 茶々丸 たしか停電は予定より7分27秒早くなったはずだが…………」

「…いけないマスター戻って！」

バシャバシャバシャ

停電が復旧しやがった

このままだとアナタシアおぼれるぞ

助けに行かないと

「ど どうしたの!？」

「停電の復旧でエヴァンジェリンの封印が復活した 魔力がなければヤツは十歳のことも同じだ おまけに泳げないし」

茶々丸と俺が助けにいこうとするが先にネギがたすけに行つたようだ  
そして杖でとんでなんとか助けられたようだ 一応よかったよかった

「エへへ さあこれでホントに僕の勝ちですよ もうこれで悪い  
ことはやめて授業にもしつかりでもらいますよ！」

「……わかつたよ 確かに今日のはひとつ借りだな」

「よし 名簿のところに僕が勝つたと書いておこう」

どこから出したんだその名簿は それに洗脳した運動部四人に脱が  
されたはずだが 生き残っていたのか

まあ とりあえずは一件落着だな



修学旅行初日 その1 (前書き)

久しぶりに投稿なので色々ぶっ飛んでいます

## 修学旅行初日 その1

八樹SIDE

まずここでやるのはこっちに帰ってきたとか言っていたハテルヤ・Mに会うことだな

基本はネギ先生の護衛だが流石にこんな大勢いる中で敵が襲ってくることはないと思う

ちなみにだが三名が欠席となった 相坂さよは自縛霊だからいけないし(がんばったらつれてこれたが時間がなかったので無理でした)あとはまあみんな分かるだろうし省略

ちなみに一日目はみんなで一斉に清水寺を見に行つて後は自由だとか

俺は多分予定はないしいけるだろう

そしてみんなが清水寺を見学中に音羽の滝にでも行つたらなんか上の方に酒の入った樽があつた

「何故あるんだ？」

幸いにも利用者はいなかったようで一応除去した

しかも狙つてるように縁結びの方に

????SIDE

くっ！ こっはどっだよ！？

ああ 空のだったな 我は………我？ いやいやわいは八樹の使い魔のドラゴニア・ナイムレス

ドラゴアって呼んでくれよな！

あと一応竜族の子供だ 一人称はわい二人称はユー そいで今はハテルとかJ・Mとかいうやつらに旧世界

につれてこられたって訳さ

「あー残念だがお前のSIDEもう終わりだからな」

「ハア！？ ちょっとどういうことだよ！ ハテルっち！」



八樹SIDE

ホテル嵐山

ちなみにどうでもいいがホテル嵐山は実在する

くわしくは各自で調べてくれ

『ひゃああ〜っ』

ん？この声は木乃香嬢の声？

まあ女子風呂だし刹那が助けしてくれると思うから放っておこう

今日は特にやることがないから刹那と木乃香の過去話でもするか

絵本を読む風に

昔、昔、あるところ（京都ですよ）に近衛家がありました

その屋敷はとてもでかくていいんちようの別荘レベルの大きさでした

そこに木乃香というヤツがいました

ったくあの堅物からこんなかわいいのが生まれたんだよ？ と、ツッコミたくなるくらいにきれいなお嬢さんでした 日本ではこういう人を大和撫子というんだよね

そしてとある日に神鳴流から刹那というヤツが来ました

コレがいわゆる運命的な出会いってやつさ ま、俺もいたんだけどね

木乃香嬢にとって刹那と俺は初の友達だったわけだ

刹那は剣道をやっていて恐い犬とかを追い払ってくれたり危ないときは守ってあげたりとかなりいいやつだ

今も守ってるんだけどね

そんなある日 木乃香嬢が川でおぼれてしまい刹那が一生懸命になつて助けようとした

しかし二人とも川でおぼれてしまつて 最終的には俺が助けた

「つたく 大丈夫か？ 一応何故か毛布をもっていたから良かったが……………」

このとき何故か毛布を持っていたんだ

「守れなくてごめんこのちゃん ウチ もっとつよおなる」

まだ子供だしそこまで強くならんでもいいのだがなとそのときは突っ込んでいたはずだ

「え そんなんええよ……一緒に遊んでくれるだけで」

ま、俺はこの一カ月後に旅立つたんだけどね

一応その後は 刹那は剣の修行で木乃香嬢と遊ぶ時間が減つてしま  
い木乃香は麻帆良に引越し

刹那も中一の時に麻帆良に引越ししてきたが……………つてわけだ



## ドラゴニア・ナймレスの設定

ドラゴニア・ナймレス

普通の竜族のドラゴン 何故か八樹になついた

カモの脱獄を手伝ったためかなり仲がいい

八樹に言葉をしゃべれる魔法をかけられたためしゃべることができ  
る、が少しミスを犯してしまい

関西弁になつた

大きさ カモの倍の大きいぐらい

技 ブレス中 普通のブレス 範囲はそんなに広くない

かまいたち 普通のかまいたち 言うほど強くない

フレイムウオーター 本人曰く自分の中では最強技 上位技で  
あるハイドロバーニングを現在修行  
中である

らいげき弱 普通の雷 本人曰く最弱技

ストロングクロー 爪に力を集中させて攻撃する ストロング

とか書いてるわりに威力はない

気迫のオーラ 唯一の防御技 つってもほとんど無意味だった  
りする

戦いの旋律 何故か自分に使えない

八樹「とまあ 紹介も終わったし 字数稼ぎに何かしゃべるかど  
うする？」

豪徳寺「どうすっか？」

山下「修学旅行編に入ったんだし京都について話してみたらどう？」

八樹「お！ それいただき！ じゃあシネマ村について話すか 正  
式名称は東映太秦映画村とうえいうすまざえいがむらだったはずだ」

山下「……………」

豪徳寺「…………… 続きは？」

八樹「… ない…………… もうあきらめて次回予告でもしよう

次回！ 八樹がついに魔法を！？ そしてハテル達も動き始める

修学旅行編  
パート2  
お楽しみに！」

八樹の他人に対する呼び方(前書き)

今後のために作ってみた



## 八樹の他人に対する呼び方

3 - A 生徒

1 相坂さよ 幽霊または相坂

2 明石裕奈 ゆーなまたは裕菜

3 朝倉和美 朝倉

4 綾瀬夕映 夕映

5 和泉亜子 亜子

6 大河内アキラ アキラ

7 柿崎美砂 柿崎（休日限定で美砂）

8 神楽坂明日菜 明日菜

9 春日美空 美空

10 絡繰茶々丸 茶々丸

11 釘宮円 釘宮

12 古菲 古

1 3	近衛木乃香	木乃香嬢（本人の前では木乃香）
1 4	早乙女ハルナ	ハルナ
1 5	桜咲刹那	刹那
1 6	佐々木まき絵	まき絵
1 7	椎名桜子	桜子
1 8	龍宮真名	龍宮
1 9	超鈴音	超
2 0	長瀬楓	楓
2 1	那波千鶴	那波
2 2	鳴滝風香	風香
2 3	鳴滝史伽	史伽（二人合わせて呼ぶときは鳴滝姉妹）
2 4	葉加瀬聡美	葉加瀬
2 5	長谷川千雨	長谷川
2 6	Evangeline A・K・McDowell	

アナタシア（みんなの前ではエヴァンジェリン）

27 宮崎のどか 宮崎

28 村上夏美 村上

29 雪広あやか いいんちよう

30 四葉五月 五月

31 Zazie Rainyday ザジ

教師

ネギ・スプリングフィールド ネギ

近衛近右衛門 学園長

タカミチ・T・高畑 高畑先生（昔はタカミチ）

瀬流彦 瀬流彦先生（休日はさんづけ）

ナギとその一行

ナギ・スプリングフィールド ナギさん（心の中では）

近衛 詠春 詠春さん

ガトウ・カグラ・ヴァンデンバーグ ガトウさん

アルビレオ・イマ アル

ジャック・ラカン ラカンさん

フィリウス・ゼクト ????

番外編 八樹の過去話（紅き翼）編 その1（前書き）

特に意味なく製作してみた あと八樹の年齢を都合上変更した

そしてドラマCDからパクりまくった（というかドラマCDを元に作った）ので間違いがあるかもしれませんが ちなみに次回はだいぶ先かな？

番外編 八樹の過去話（紅き翼）編 その1

とりあえずの風呂場

詠春「は〜極楽極楽」

ゼクト「なかなかきもちのいい風呂じゃのう」

ナギ「ってあつち〜！」

ガトウ「あいかわらず風呂が苦手なようだな ナギ」

ナギ「苦手なんじゃねえ！ 嫌いなだけだ！」

八樹「ほとんど同じと思いますけど……？」

ナギ「うっせー！」

ジャック「ところで詠春 なんでめがねをかけたままなんだ？」

詠春「いやあ、めがねがないと見えないんでな」

ジャック「そーいや詠春のめがねをはずしたところ見たことねえな」

ナギ「確かに 見たことねえな」

タカミチ「僕も見てみたいです」

八樹「面白そうだな 俺も見てみたいな」

ジャック「おい詠春！ めがねはずしてみろよ」

詠春「な！？ やべっ！ めがねは絶対にはずさん！ これはいわゆる俺の一部だ！」

ナギ「っていわれるとはずさせたくないよな」

八樹「うんうん」

ジャック「となりゃあ」

ナギ「突撃ー！！」

詠春「っておい！ うわっ やめろって！」

ナギ「いいからはずせ！」

詠春「うわ やべっ！？」

ジャック「よっしゃ！ めがねゲット！」

詠春「ひー！？」

八樹「……………」

ナギ「……………って詠春おまえ……………」

詠春「えっ？」

ナギ「やっぱめがね返すわ」

詠春「なんで？」

ナギ「いいからかけろって」

詠春「なんだよ急に」

ナギ「だ、だってよお」

ジャック「正直、めがねはずしたお前の顔は色っぽくて見てられん」

詠春「え？」

そんなこんなで明日への戦いに控えて少年の日に帰ったように仲間と楽しい日々を送った

そしてその夜 各自が材料を持ってきて詠春お得意の鍋を食すことになりましたと

詠春「よしみんな ちゃんと材料は持ってきたか？」

ナギ「おう！ 俺は最高級の肉を持ってきたぜ！」



タカミチ「僕は旧世界日本のおもちを持ってきましたよ」

八樹「俺はみんなに先を越されまくったから鍋用の魚を持ってきたぞ 生では食えないからな」

アルビレオ「私は新鮮な有機栽培の野菜を持ってきました この今朝とれたネギなんかは鍋にぴったりですよ」

ナギ「ネギかあ 俺、ネギは食べるけど芯はダメなんだ芯は あっちいしな」

ガトウ「俺は最高の豆腐を持ってきたぜ なんでも旧世界じゃヘルシーな食材として親しまれているらしい」

ゼクト「わしはそこらに生えていたきのこを持ってきた」

八樹「いや、そんな怪しいもの持ってこないでくださいよ」

詠春「よし みんな良い食材を持ちよったな よし！ ここからは旧世界随一の料理人 詠春にお任せあれ！」

アルビレオ「でもまだラカンさんが来てませんが」

ガトウ「そっぴやクルトのやつも来てないな」

八樹「七樹（父）は別のところで遊んでいるけどね」

ナギ「いいじゃねえか そもそも呼んでねーし 筋肉ダルマとすました眼鏡はほっぴといて先に始めよ ぜ！」

ゼクト「よいのかのう？ あとでぐうたら言われても知らんぞ」

ナギ「んっふっふっふ この旧世界の鍋料理はたまんねえんだよなあ」

詠春「おいナギ！ 前も言ったが肉を先に入れるなよ」

ナギ「へいへい 分かってますよ料理人詠春様」

アルビレオ「ハツハツハ 詠春のように鍋にうるさい人を旧世界では鍋將軍と呼ぶそうですね」

ナギ「あゝでもやっぱもう我慢できねえ！」

八樹「あっ……………」

ゼクト「肉を入れてしもうたの」

## 修学旅行初日 その2

八樹SIDE

無意味にエントランスにやってきた

刹那が何かしているようだが

「式神返しの結界？ 何かあったのか？」

「え……ええ 実はさっきいろいろありまして」

刹那から事情を聞く とりあえずなんか訳のわからない式神がやってきているいろいろやがったそうだ

「あ」

「いたいた桜咲さん」

何故かネギと明日菜が来た

ハテルSIDE

「J・Mはどこに行ったんだよ？ ドラゴア」

「知るか そんなん っーかわいが知りたいわ」

宿を見つけることができず野宿となった二人と一匹

「とりあえず 木を器用燃やして一時的な家でも作るか」

「勝手に燃やしてええんか？」

「大丈夫だつて ばれなきや」

こうして俺が木を燃やそうとしたとき

シュシュッ

何かが俺の前を通った

「何か通らなかつたか？」

「奇遇やな わいもそう思ったわ」

とりあえず何故か持っているヴィーキング・ソードを構えて今の通ったやつを追う

ちなみにヴィーキング・ソードとは、切断が目的の刀剣である。剣身の模様は蛇に似た表面処理が施されており、神秘的且つ魔力を備えたように見える。鋼がまだない時代であり、金属硬化により強度を持たせものの、戦闘中には刃は曲がる事もあった。

ヴィーキングソードは、北欧を中心に欧州に広まった。ヴィーキング、バイキングとも言われるが、正しい発音は「ヴィーキング」である。

それはさておきとつと追うことにしよう

## 八樹SIDE

謎の3 - A防衛隊が結成された

そして俺は玄関を見張ることになったがぶっちやけると敵に逃げられた

そして今は刹那とネギと明日菜と一緒に追いかけている

「ち・・・しつこい人はきらわれませえ」

ちなみにこいつは天ヶ崎千草という人物

「あ マズい 駅へ逃げ込むぞ」

「っていつか何よ あのデカいサルは!? 着ぐるみ!?」

「いや、あれは関西呪術協会の呪符使いだったと思うぞ」

「というかあれでよく動けるなとつくづく思う」

「あの着ぐるみもただの着ぐるみではなさそうです 気をつけて!」

人がいないな こりゃあ人払いの呪符があるな

とりあえず刹那が明日菜に人払いの呪符について説明中

そして俺達3 - A防衛隊は電車の中に入った

「うわつと間に合った」

「ネギ先生! 前の車両に追い詰めますよ!」

「待てーっ!」

「フフ・・・ほな二枚目のお札ちゃんいきますえ」

あ、アレはちょいマズい

「お札さんお札さん ウチを逃がせておくれやす」

ドパッ!

予想通り水攻めか　しかし予想外な速さで車内は水でいっぱいとな  
った

「ホホ・・・車内でおぼれ死なんよーにな　ほな」

ぶつちやけまずい状況　だが剣は旅館に置いてきたし　ネギはこ  
んな中で魔法なんて唱えられるわけないし　刹那にがんばってもらわ  
ないと

そうこうしてるうちに刹那が斬空閃をはなちドアをぶち破る

はあ　このドアは俺が修理するんだろうな

「あれ」

ようやく車内から脱出した俺達　この先どうなるだろうな

修学旅行初日 その2（後書き）

山下「そろそろゲストでも呼ぶ？」

八樹「そうだな ぶっちゃけやることはないがゲストでも呼ぼうか  
ちなみに豪徳寺は応援団の練習中だからいないぜ 今日のゲスト  
はあの後どうなったか良く分からないフィリウス・ゼクトさんです  
！」

ゼクト「ずいぶんひどい紹介じゃのう」

八樹「別にいいじゃん それしかないんだし な？」

山下「結局何するの？」

八樹「めんどくさいし仮契約について話すかちなみに俺の仮契約し  
たヤツは以下の人物だ」

ハテル・テル

J・M

???

???

???

ゼクト「ほお 五人と仮契約をしていたのじゃな」

山下「そのうち三人はまだ不明だけどね 次はどうする？」

八樹「もうネタがないよ せっかく大物ゲストを呼んだのに すま



んな  
以上で終わりだ」

雑談！！

八樹「最近やることないな」

山下「そうだね どうする？」

八樹「そうだな……豪徳寺もないし今日は二人かな？」

山下「多分そうだろうね」

????「ちよつと待ったー!!!」

八樹「Who？」

2（セクンドウム）「てめえ！ 俺を忘れんじゃねえよ！」

八樹「またまたすごいのがきたな この調子でデユナミスでも呼ぶか あーあー デユナミス さつさと来い！ あ？ お前とは敵だから無理だと？ 知るか これは敵も味方も関係ないんだよ！」

2「結局来るのか あいつは」

八樹「色々あるから無理だつてさ」

山下「というか2つって消えたんじゃないの？」

八樹「いいんだよ ちなみにゲストはこういう変なヤツしか呼ばないからな 多分」

山下「じゃあ 何をする？」

八樹「だいぶ先だが麻帆良祭の話でもしよう これはネタばれの可能性ありだから飛ばしたい人は飛ばしてくださいな」

2「ほう 大体六ヶ月くらい先のことだな しかもISの方も更新してないし 遊戯王なんて二週間ごととかいいながらあのあと更新してないからな」

山下「ISの方は来年から更新再開するって作者は考えてるらしい」

八樹「んじゃまず 武闘会には出るぞ 展開は結構オリジナル的だけど」

2「あの魔法ばんばん使っていた大会か」

山下「そうそう カイザーナックルで殴られて一発K・Oされたあれだね」

八樹「じゃあ次はっとライブだな」

山下「でこぴん Rocket のライブのことかな？」

八樹「おお 確かバカテスの方の小説でバンド組んでいる設定だったからそれを引き継いで

いわゆる顧問になることになった もう言うことがないから麻帆良祭の話は終了だ」

2「次は何するんだ？」

八樹「さあ？ 特にないからオリジナル設定の話でもするか  
ぶっっちゃけ豪徳寺以外山下他二名は部活に入っているか不明だから  
勝手に部活を作ってみた」

山下「その部活とは？」

八樹「武術研究部ってことにしておいた 顧問は一応俺だ」

2「具体的には何をするんだ？」

八樹「その名のとりの部活だ」

山下「じゃあ 次回予告をやるよ 結局魔法を使わなかった八樹  
果たしていつ魔法を使うのか？  
次回で修学旅行一日目終了！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8312x/>

---

魔法先生ネギま！ 例のやつがやってきた？

2011年12月29日15時47分発行